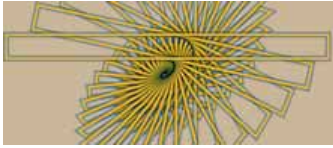




北田氏の報告を受けて

リプライ: 鈴木謙介



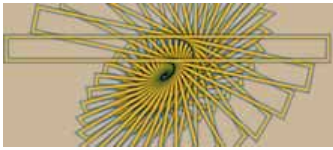
公共圏論のメディア的前提

- 「ネットでこそ真の民主主義が可能に！」
 - 民主主義的公共圏を支える制約
 - つまりメディア論的な前提が存在する
 - それにも関わらず、前提が透明化する
 - 規範論的な公共圏論の立ち上がり
- 実際には、公共圏における討議は、「言説の希少性」によって担保されていた



電子公共圏の不可能性

- 独占体制の崩壊：希少性の消滅
- CMCにおけるコンテクストの無限定性
 - 2ch的脱臼、ネタ化
- 時間的/空間的無限定性
 - 即レス圧力、レスの自己目的化
 - (「繋がりの社会性へ)
- 「ジャーナリズムの危機だ！」
 - ところで、こうした「危機」論は学問の世界にも共通？



コミュニタリアニズムをどうするか

- 闘争的コミュニタリアンへの統御

	コミットメント	社会性
闘争的 コミュニタリアン	内容	反社会的
多元主義的 コミュニタリアン		脱社会的
リベラル	形式	共通化
自生的秩序論		

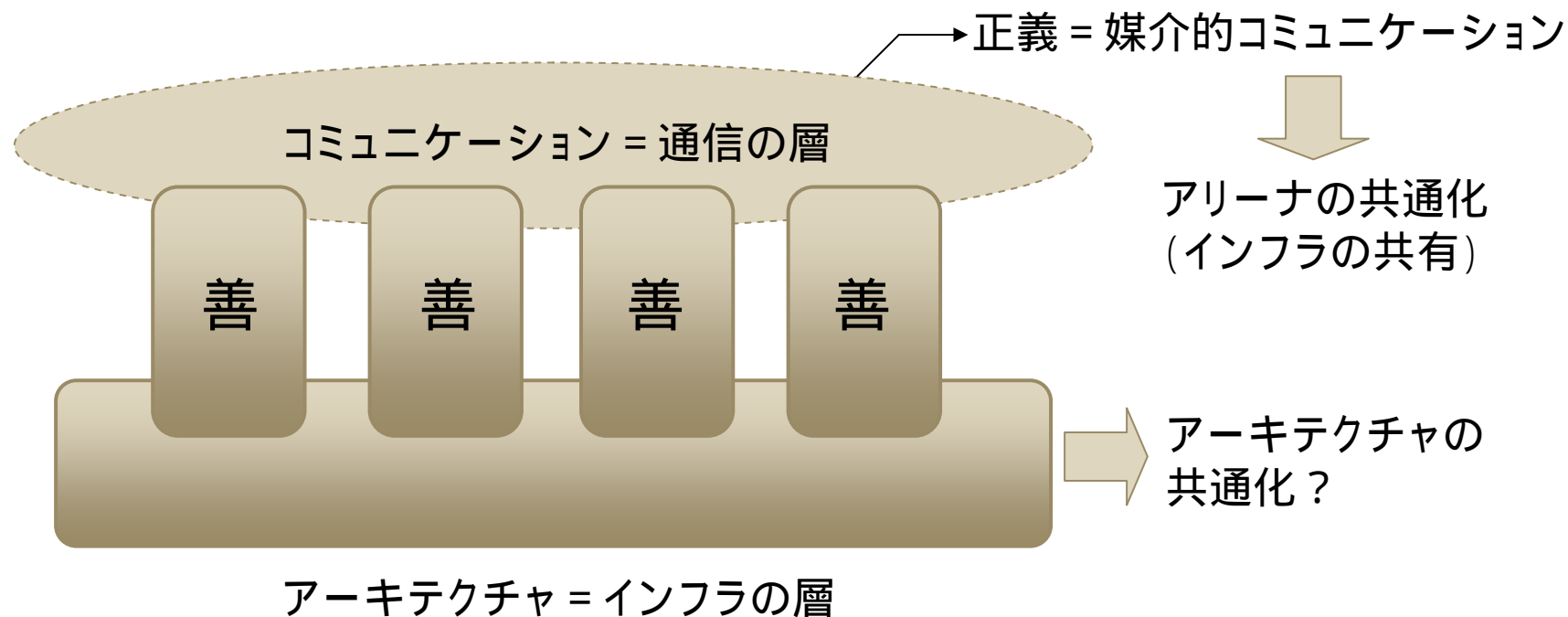


コミュニタリアニズムをどうするか

- 闘争への統御 ラディカル・デモクラシー化
 - 民主的ルールの中で闘争する限りにおいてそれは、民主主義が健全に運営されていることの指標となる 「落としどころ」へと向かう民主主義
- では脱社会的存在をどうするか？
 - CMC空間における無限責任/応答への要求 (= respons-ibility) から「降りる」という評価
 - しかし分断と排除を呼び起こす可能性も

自生的秩序論によるコミット

- 情報社会論の二層構造(東[2005])のアレンジ





リベラル的コミット/環境的コミット

- 何が秩序を可能にするのか

リベラル的コミット	環境的コミット
<ul style="list-style-type: none">➤ インター××セッション➤ 共通のアリーナ➤ 善に対する正義の優先➤ 規律訓練型権力	<ul style="list-style-type: none">➤ グローバリゼーション➤ 共通のアーキテクチャ➤ 正義に対する善の優先(?)➤ 環境管理型権力

– リベラル的コミットの原理、「正義」に代わって、環境的コミットの原理である「唯物論」の前景化

- ここでいう「唯物論」は、生産手段のことではなく流通 – 消費に関わるインフラのことを指す



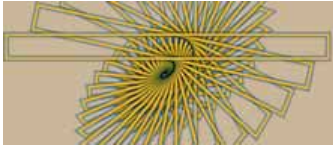
討議に当たってのポイント

1. フリーライダーへの対処

- 正義論は、フリーライダーへの内面的対処を要請するが、唯物論は「知らず知らずのうちに」フリーライドを不可能にさせる
 - そこに問題点はあるか？

2. 再びメディアの問題へ

- マスメディア(あるいは学問も?)が有していた「正義」の、情報化による脱文脈化
 - それをもってリベラルな正義の再生を祈るべきか？



リプライ:鈴木謙介

2005/7/9

- Kensuke Suzuki -